

いこっさNICCAを開催

近隣の地域住民の皆さまとの交流イベント「いこっさNICCA」を福井本社にて開催しました。

当社では、日頃からの当社へのご理解、ご協力に対する感謝を込めて、2005年から同イベントを2年毎に実施しており、今回は200名を超える方々が来社されました。地域の皆さまに初めてのお披露目となるNICCA イノベーションセンターの見学会や、化学実験教室、水消火器の体験等、子供から大人まで楽しんでいただけるさまざまな催しを行いました。

また、今秋開催される「福井しあわせ元気国体・障スポ2018」では、当社がオフィシャルサポーターの1社であることから、同大会のマスコットキャラクター「はぴりゅう」も来場し人気を集めていました。

今後も、地域の皆様に愛され続ける企業を目指し、活動してまいります。



オープニングでの
江守社長挨拶



「はぴりゅう」と交流する
子供たち

株主優待品のご案内

当社では2017年12月に株主優待制度を拡充し、より多くの株主様にご利用いただきやすい優待内容いたしました。今春は対象となる株主様に右記の優待品をお届けいたしました。

来春のヘアケア商品は未定ですが、2019年4月上旬に発送予定です。どうぞご期待ください。

- 100株以上保有 QUOカード1,000円分
- 1,000株以上保有 QUOカード1,000円分
+ デミ コスメティクス ヘアケア商品

1,000株以上保有の株主様

100株以上保有の株主様



QUOカード
1,000円分



デミ コスメティクス
ヘアケア商品

ヘアシーズンズ
アロマシロップス
左：シャンプー
250ml ¥1,600 (税抜)
右：ヘアトリートメント
240g ¥2,600 (税抜)
※メーカー希望小売価格

会社概要 (2018年6月30日現在)

商号	日華化学株式会社
本社所在地	福井県福井市文京4丁目23-1
創立	1941年9月15日
資本金	28億9,854万5千円
従業員数	1,490名(連結) 616名(個別)
事業所	本社・NICCA イノベーションセンター 支店／東京・大阪・名古屋 営業所／仙台・広島・福岡 工場／福井(化粧品) 鯖江・関東・鹿島(化学品) 物流センター／鯖江 デミヘアサイエンススクエア／福井・東京・大阪・名古屋・福岡
国内関係会社	●山田製薬株式会社 ●コスメラボ株式会社 ●イーラル株式会社 ●大智化学産業株式会社 ●江守エンジニアリング株式会社 ■ソルバイ日華株式会社
海外関係会社	●日華化学研究(上海)有限公司 ●DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL TRADING CO., LTD. ●香港日華化学有限公司 ●DEMI KOREA CO., LTD. ●ニッカ U.S.A., INC. ●ニッカ KOREA CO., LTD. ●PT.インドネシアニッカケミカルズ ●日華化学(中国)有限公司 ●台湾日華化学工業股份有限公司 ●STC ニッカ CO., LTD. ●ニッカ VIETNAM CO., LTD. ●広州日華化学有限公司 ●連結対象子会社 ■持分法適用関連会社

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	フリーダイヤル 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
単元株式数	100株
証券コード	4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について】
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

表紙写真説明

- ①新ヘアカラー「ル ポリサージュ」
- ②インド・レジル社の研究スタッフ
- ③NICCA イノベーションセンター フリーアドレス制の執務エリア
- ④台湾子会社50周年記念式典
- ⑤福井国体キャラクター「はぴりゅう」(いこっさNICCA)



日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE グローブ

第105期 第2四半期 | 事業報告

2018年1月1日~2018年6月30日

vol.35

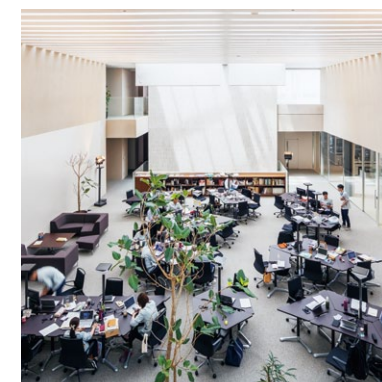
化学品、化粧品ともに上半期増収増益。
通期中計目標の売上、利益前倒し達成へ。

事業概況のご報告
TOP MESSAGE



NICCA REPORT

異質なものを混ぜ合わせ
イノベーションを



NEXT INNOVATION
新ヘアカラー「Le POLISSAGE」

GLOBAL REPORT

インドの繊維加工用薬剤
メーカーと業務提携

財務・株式の状況
TOPICS



これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life

日華化学株式会社

株主の皆様へ



代表取締役社長

江守康昌

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年12月期（第105期）第2四半期決算についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年6月30日）におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が継続し、世界経済においても底堅く推移しました。しかしながら、各国・地域における政治的・地政学的リスク、金融資本市場の変動、原油価格の動向など、引き続き注視が必要な状況が続いております。

こうした経営環境のもと当社グループは、積極的な事業活動を推進した結果、化学品事業においては、中国、ベトナムでの繊維加工用薬剤の販売が好調に推移するとともに韓国での収益性が向上し、化粧品事業においては、国内サロン様向けの販売や製造受託事業、韓国での販売がそれぞれ好調に推移し、増収増益となりました。

また、今期（2018年12月期通期）において、中期経営計画「INNOVATION19」の売上高500億円と営業利益25億円の各目標を1年前倒して達成する見込みとなりました。

今後も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▶ 2018年12月期（第105期）第2四半期決算概況

売上高 **247億5千2百万円** **5.7%増**

■ 化学品（中国、ベトナム）、大智化学産業好調
■ 山田製薬、化粧品（韓国）好調、化粧品国内増加 ■ 対アジア通貨円安

営業利益 **12億1千3百万円** **12.7%増**

■ 化学品海外売上高増・高収益製品販売増

経常利益 **12億6千6百万円** **15.2%増**

■ 営業利益増による増益

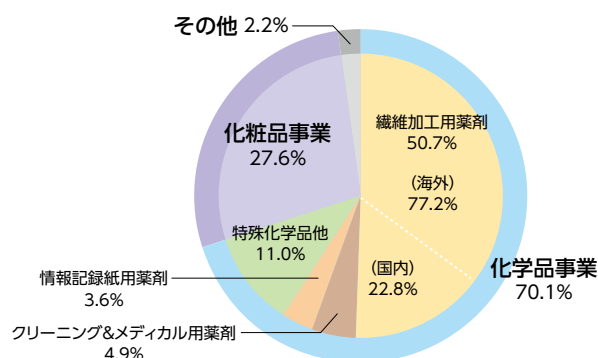
親会社株主に帰属する

四半期純利益 **18億2千9百万円** **219.8%増**

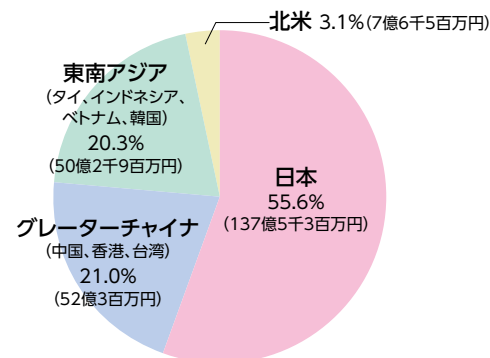
■ 特別利益（台湾土地売却益）発生

※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※％表示は前年同期比です。

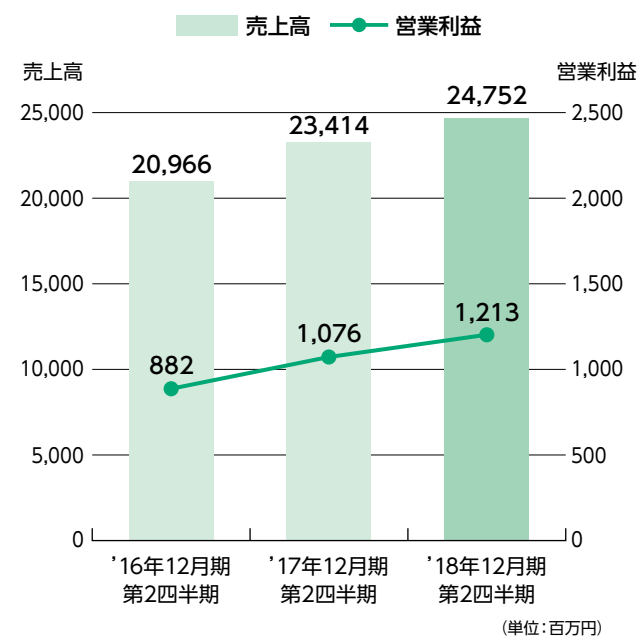
【事業別売上高比率】



【地域別売上高比率】



【売上高・営業利益の推移】



化学品事業



繊維加工用薬剤

繊維加工の一連の工程（製織・製編から精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤

情報記録紙用薬剤

インクジェットプリント用薬剤や、ラベル、チケット、タグ、レジスター紙等の高性能感熱紙に使用される顔色剤、増感剤



クリーニング&メディカル用薬剤

クリーニング店向けの薬剤、医療器具の洗浄剤等

特殊化学品他

合成ゴムやプラスチック素材、電子材料加工時に使用される界面活性剤

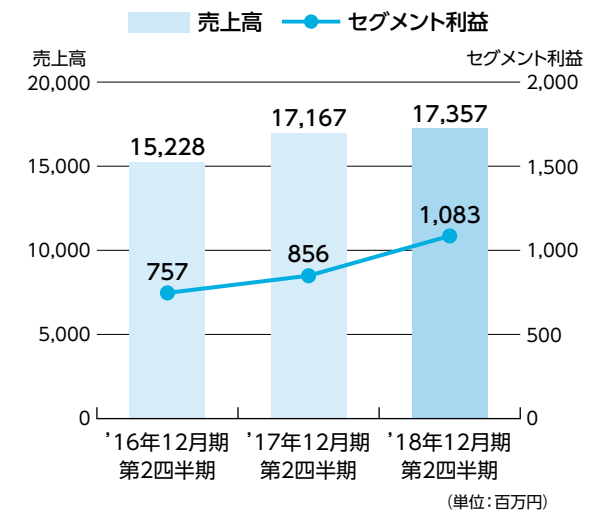
売上高 **173億5千7百万円** **1.1%増**

セグメント利益 **10億8千3百万円** **26.5%増**

- 中国、ベトナム 繊維加工用薬剤販売好調
- 大智化学産業 半導体ウェハー市場向け製品好調
- 韓国 収益性向上に伴い利益増
- 対アジア通貨円安の影響

主力の繊維加工用薬剤の販売が中国、ベトナムにて好調であったほか、大智化学産業の半導体ウェハー市場向け製品の販売が好調に推移したこと、さらに対アジア通貨円安の影響もあり売上高は増加しました。また、ニッカ コリアにおいて収益性の高い製品の販売が伸びたことに加え、国内でコスト最適化活動を継続的に推進した結果、セグメント利益も増加しました。

【売上高・セグメント利益の推移】



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤を提供

ODM・OEM

髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



一般通販

フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

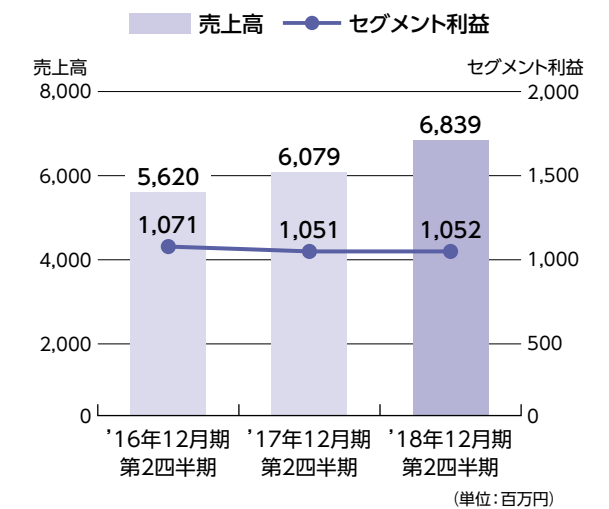
売上高 **68億3千9百万円** **12.5%増**

セグメント利益 **10億5千2百万円** **0.1%増**

- 山田製薬 化粧品製造受託事業好調
- 国内デミ 増加
- デミ コリア 好調

デミ コスメティクスにおいて主力ヘアケアブランド拡販に注力したことにより国内サロン向けの販売が増加し、山田製薬における化粧品製造受託事業、デミ コリアにおける販売が引き続き好調に推移したことで売上高は増加しました。一方、将来に向けた新たな投資案件や工場のメンテナンス等の費用が発生した結果、セグメント利益は微増となりました。

【売上高・セグメント利益の推移】



※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※％表示は前年同期比です。



代表取締役社長
え も り や す ま さ
江守 康昌

化学品、化粧品ともに増収増益を達成。 中期経営計画目標の売上高500億円、 営業利益25億円前倒し達成へ。

第105期となる2018年12月期の上半期(1月～6月)連結業績は売上高、営業利益、経常利益ともに前年同期比でプラスとなり、通期業績予想を中期経営計画「INNOVATION19」で目標に掲げる連結売上高500億円、営業利益25億円の1年前倒し達成に上方修正しました。

代表取締役社長・江守康昌が上半期の業績を振り返るとともに、長期経営計画「INNOVATION25」に向けた取り組みなどについて語ります。

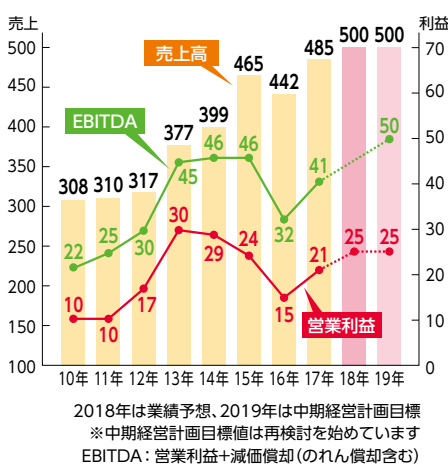
通期業績予想を上方修正

上半期は連結売上高247億5,200万円となり、過去最高となった前年同期の売上高に比べて、5.7%増という結果を残すことができました。また、営業利益、経常利益も前年同期比で、それぞれ12.7%、15.2%のプラスとなりました。期首の連結業績予想と比較すると、売上高5.3%増、営業利益51.3%増、経常利益57.5%増となり、いずれも大きく上回ることができました。

増収増益を実現できた一番の理由としては、当社の両翼となる化学品事業、化粧品事業ともに堅調に推移したことが挙げられます。これは日華化学が追い求めてきた技術

力が国内外で認められた結果であり、今後の事業展開に関しても確かな手応えを感じ

業績の動向 (単位: 億円)



ているところです。加えて、3月以降は若干の円高傾向は見られたものの、安定した為替相場など、当社を取り巻く経営環境も、業績を後押しする一因となりました。

上半期の業績を受け、第105期(当期)通期の連結業績予想の売上高、営業利益、経常利益について上方修正を行い、期首予想値に対して売上高は10億円増の500億円、営業利益・経常利益はともに2億円増の25億円としました。連結売上高500億円と営業利益25億円は、2017年から3年間をかけて経営基盤の強化に取り組んでいる中期経営計画「INNOVATION19」で設定した目標であり、1年前倒しでの達成に向けて、この下半期も着実な前進を続けていきたいと思っています。

化学品事業は中国、ベトナムが好調

続けて、各事業について、上半期業績の詳細をご説明いたします。

まず化学品事業では、国内外ともに業績は好調でした。とりわけ国内では、当社グループの大智化学産業(※1)が大きく売上を伸ばしました。同社は、半導体ウェハーの製造過程で用いる水系クーラント剤(※2)のトップメーカーです。現在、我が国の目指す未来社会として「Society5.0」(※3)が強く叫ばれており、人工知能(AI)や自動運転などの技術開発が活発に進められていますが、これらに不可欠なコア技術が半導体であり、当市場の拡大が同社の成長を後押ししています。

ただ、同社に関しては、業務の効率化に知恵を絞ることで、まだまだ生産能力を高められると考えており、展望の明るい半導体市場でのさらなるシェアの獲得に努めてまいります。

海外では、中国とベトナムでの繊維加工市場の活況が業績を押し上げました。それぞれの市場を見ていくと、中国に関しては、かつては意識の低かった環境対策が不可欠となり、この潮流を力強く乗り越えていく企業

と、対応できずに飲み込まれる企業の二極化が進んでいます。そんな中、当社グループが得意とするのは環境対応型の高品質な製品であり、勝ち残り成長していくお客様から、当社の技術力に信頼が寄せられ、新規受注の獲得につながっています。また、継続して注力しているグループを挙げたビッグアカウント(※4)戦略が前期に引き続き実を結び、新規顧客の取引高増につながりました。今後も繊維加工の世界一の巨大市場である中国で、シェア拡大を図ってまいります。

一方、目覚ましい経済発展が続いている市場がベトナムです。ベトナムは、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定の参加国であり、インフラも高い水準にあります。さらに、割安な人件費や勤勉な国民性などもプラス材料であり、繊維加工産業の世界的なメーカーの製造拠点が増加しています。当社では、昨年10月にニッカ ベトナム(※5)の新工場を竣工しており、今後も繊維加工用薬剤の需要が高まっていくベトナム市場でのシェア拡大を推し進めていく考えです。

化粧品事業は国内市場が回復

化粧品事業は減収減益となった前期の踊り場を脱し、前年同期比で売上高が12.5%増となり、再浮上のきっかけをつかむことができたと考えております。

特に、増収につながった背景としては、国内市場の回復が挙げられます。昨年、サロン向けヘアカラー市場において他社がファッション系カラー剤を相次いで発売し、安価な製品が出回ったことで、当社製品のシェアが落ち込みました。しかし、これはある程度想定済みであり、短期の売りに一喜一憂して価格競争に身を投じる考えは全くありませんでした。一時は離れたとしても、サロン業界のお客様がさまざまなヘアカラー剤を比較検討される中で、高品質な当社製品に戻ってきてくれるという思いがありました。

また、昨年9月にはヘアケアブランド「フローディア」の全面リニューアルを行い、今

年4月には夏限定のビューティーケアシリーズ「ハレマオ」、6月には頭皮トラブルを抱える女性向けの「フローディア スキャルプケア」を発売しました。苦戦を強いられたヘアカラー市場で持ちこたえ、フローディアなどの新ヘアケア商品が好調な売れ行きとなったことが、化粧品事業の回復につながった大きな要因の一つです。

さらに、ヘアカラー剤では、この9月に当社が開発した世界初のグロス染料を配合した「ル ポリサージュ」が新たに登場します(詳細についてはP7をご覧ください)。ヘアケア、ヘアカラーそれぞれの商品ラインアップの充実によるシナジーに期待を寄せています。

加えて、国内市場では、当社グループの山田製薬(※6)に対するお客様からの信頼は依然として厚く、OEM・ODM(※7)事業は引き続き好調に推移しました。韓国のデミコリア(※8)も好調を維持しており、海外事業の着実な成長も化粧品事業の増収に大きく貢献しています。もちろん、上半期の業績がよかったからといって安心はできません。お客様が当社に寄せる期待を上回る、より高品質な自社商品の開発など、技術の研鑽に一層取り組んでいかなければならないと感じております。

2025年への布石も着々

長期経営計画「INNOVATION25」に基づき、現在、日華化学は歩を進めており、上半期には未来に向けたさまざまな布石も打ちました。その一つがインドのレジル社との業務提携であり、次代の有望な市場であるインドでの事業展開に力を注いでいます(詳細についてはP8をご覧ください)。

4月には鹿島工場(※9)の二期工事もスタートさせました。この工事は鯖江工場で担っている水系ウレタン(※10)の生産機能を鹿島工場にも新設し、大量受注・生産に対応していこうとするものです。オートメーション化を推し進め、当社のこれからの生産体制を象徴するモデル工場として整備します。



2019年下期での稼働開始を予定し、二期工事が進められている鹿島工場

同じく4月に、世界的な大手アパレルブランドメーカーに関わる団体が加盟している有害物質の使用を制限する自主規制グループ「ZDHC(※11)」に日系企業として初めて加盟したのも、今後の海外展開を推し進める上では大きなトピックです。

このほか、当社初の海外拠点である台湾日華化学工業(※12)が6月に創立50周年を迎えました。中国をはじめとしたアジア戦略を軌道に乗せることができたのも台湾での成功があったからであり、50周年を祝う記念式典には、政府関係者や現地のビジネスパートナーなど200人を超える方々に参列いただき、感無量の喜びでいっぱいでした。

また、この7月からはフレックスタイムや在宅勤務など、働き方に関する新たな制度について試験導入を始めました。これは多様な働き方を整えることで、さまざまな環境の社員が能力をより発揮しやすくするための取り組みで、昨年11月に開所したNICCA イノベーションセンターと合わせ、ハード・ソフトの両面で働く環境の充実に知恵を絞っています。

このように日華化学では、多岐にわたる手を打っていますが、そのいずれもがイノベーションを創出し、さらなる高みに踏み出すための挑戦であることに変わりはありません。株主の皆様におかれましては、当社グループの成長にご期待いただくとともに、温かなご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

用 | 語 | 解 | 説

【※1】大智化学産業／1966(昭和41)年創業(本社:東京都中央区)。2015年に当社が買収した100%子会社。半導体ウェハーなどの加工用水系クーラント剤(※2参照)のトップメーカーで、使用済み製品を回収・再利用する事でゼロエミッションを達成しています。

【※2】クーラント剤 半導体ウェハーなどの製造加工で、切削や研磨の際の摩擦を抑える薬剤。油系が主流でしたが、作業環境の危険要因となる引火性の問題などがあり、大智化学産業(※1参照)が他社に先駆けて水系製品を開発しました。

【※3】Society5.0 情報社会に続く未来社会のこと。仮想空間と現実空間を融合させるシステムで、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会を意味しています。

【※4】ビッグアカウント 当社がターゲットとする超大手繊維加工製造業者。世界的に有名なファッション/スポーツアパレル企業からの受注が集中しており、大規模な工場で生産・加工し世界市場に供給しています。

【※5】ニッカ ベトナム 2004(平成16)年、ベトナムに設立した子会社で、繊維加工用薬剤をはじめ、金属、製紙、塗料用など幅広い界面活性剤の製造・販売を手がけています。

【※6】山田製薬／1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995(平成7)年に当社が買収した100%子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけ、霞ヶ浦工場は当社グループ化粧品事業の第二工場としての役割も担っています。

【※7】OEM・ODM OEMは相手先のブランドで製造すること。ODMは相手先のブランドで当社が剤のレシピをはじめとした製品設計から製造までを担当すること。

【※8】デミ コリア 2012(平成24)年、韓国に設立した100%子会社。韓国美容室市場でデミ コスメティクス商品を販売しています。

【※9】鹿島工場 鹿島臨海工業地帯の一角(茨城県神栖市)にある非イオン界面活性剤などの中核工場。生産能力の大幅な増強を目指しており、グループ子会社などへの原料生産拠点としての役割も担っています。

【※10】水系ウレタン 人工皮革、塗料、接着剤などで使用されるウレタン樹脂は溶剤系、水系に大別でき、環境負荷低減のために水系品が求められています。当社の高性能な水系ウレタン樹脂は、人工皮革用途で圧倒的なシェアを誇っています。

【※11】ZDHC／2011(平成23)年に発足した国際的な自主規制グループ(本部:オランダ・アムステルダム)で、世界的なアパレル・スポーツブランド企業が参加。当社では、ZDHC方針に基づき有害物質の使用を自主的に制限するなどの活動を行っています。

【※12】台湾日華化学工業 1968(昭和43)年に台湾・板橋市に設立。2014(平成26)年に桃園市に移転。繊維加工用薬剤をはじめ、台湾で盛んなIoT関連薬剤の製造・販売、先端技術の研究開発などを行っています。

新製品開発や新規事業の創出に向け、異質なものを混ぜ合わせイノベーションを。

日華化学では「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」を全社基本ビジョンとする2025年までの長期経営計画「INNOVATION25」に取り組んでいます。長期経営計画に掲げた目標の達成に向けて重要なのは、オープンイノベーションを推進し、新製品の開発や新規事業の創出を加速することです。2017年11月にはオープンイノベーションを活発化させるための新たな研究開発拠点として「NICCA イノベーションセンター（以下、NIC〈エヌアイシー〉）」を本社敷地内に開所しました。稼働を始めて約9カ月が経過した現在の状況について、化学品部門の研究開発を統括する界面科学研究所長の稲継 崇宏と、化粧品部門の研究開発を統括する毛髪科学研究所長の坪川恒一郎に聞きました。

NICに知の融合促す仕掛け

——そもそもなぜオープンイノベーションが必要なのでしょう。

坪川●既存事業、既存技術の付加価値を高め、永続的に企業を発展させていくには絶え間ない革新、つまりイノベーションが必要です。その実現には異質なものが混ざり合うことが欠かせず、最適解と言えるのがオープンイノベーションなのです。当社には化学品と化粧品という二つの事業の柱がありますが、従来は別の建物で仕事をしていて、交流する機会はそれほど多くありませんでした。しかし、異なる特長を持った研究開発陣が協働すれば、他社にはできないことができますと考えています。さらに、さまざまなビジネスパートナーや大学、研究機関を巻き込むことで、よりインパクトのあるイノベーションの創出を目指しています。

稲継●私が統括する化学品部門では、手がける製品のほとんどは最終製品ではなく中間材ですから、研究開発にあたっては、これまでも川上や川下に位置するメーカー、あるいは大学や研究機関と連携してきました。ただ、従来は協働の成果を社内に取り込み、自前の技術で最適化した上で製品化し

てきましたが、近年、我々の技術の延長線上にあるものより、さらに高度で多様な要望が寄せられるようになりました。その結果、自前の技術にしてから提供するプロセスを踏んでいては間に合わなくなり、これまでより一歩進んだオープンイノベーションの推進が必要になってきたのです。

——オープンイノベーションの推進に向け、NICには大きな期待がかかっていますね。

坪川●まずは界面科学研究所と毛髪科学研究所の知を融合させることが第一歩です。2階には化粧品部門、3階には化学品部門のスタッフが働いていて、各フロアは気軽に行き来できるようになっている上、館内のあちこちにソファやテーブル、ホワイトボード等が設置されていますので、思い立ったらいつでも気軽にミーティングできるようになっています。化粧品部門で言えば、1階には「デミヘアサイエンススクエア」(※1)を設け、社内だけでなく、外部からお客様を招いて、共通の目標に向かって協業する環境を整えています。実際、化粧品部門の商品を扱う代理店や美容室の方に来社いただいて、試作品の使用感を試してもらったり、意見をいただいたりして、ものづくりに生かしています。化学品部門の社員や設備も自然と目に入りますから、化粧品メーカーとしてだけでなく、化学メーカーとしてのバックボーンを感じていただくことができ、お客様からの信頼度が一段と高くなる効果もあると実感しています。稲継●NICには働き方改革を促す仕掛けがいろいろあります。例えば、2階と3階は決まった座席を設けないフリーアドレス制を採用しました。異なる分野の研究者が隣り合って仕事をしたり、異なる職種のスタッフが近くにいたり、自分と違った価値観と日常的に



執行役員
界面科学研究所長
兼 研究開発戦略部長

稲継 崇宏

接する環境を作り出し、知の融合を生み出すことが狙いです。また、NICは開放的な空間に設計されていて、研究所にありがちな静まりかえった環境ではなく、少しざわざわとした雰囲気です。そうした話をしやすい環境もコミュニケーションを加速させてくれます。

意識が変わり、協働の成果も

——NICの稼働後、社員の働き方に変化は現れていますか。

坪川●空間が広いと視野も広がります。研究スタッフは一人一人、担当するテーマが決められていますから、今までは発言の内容もテーマにとらわれたものが多かったのですが、NICで働き始めてからは発言や思考の幅が少しずつ広がっていると感じます。研究体制も以前は別々に活動していた基礎研究チームと商品開発チームが同じテーマで取り組むなど、よりフレキシブルになりました。化学品部門との距離も近くなり、部門の枠を超えたコミュニケーションも確実に増えたことで、オープンイノベーションが一層活発化すると期待しています。

稲継●環境が変わると人の感じ方や考え方も変わります。化学品部門においても、NICの開所以降、気軽な短時間の打ち合わせが増え、特に若手を中心に表情も明るくなりました。また、化学品部門は従来、事業部ごとに研究を行う縦割り型の組織で、基礎研究を手がける部隊とお客様のニーズに沿って製品化を進める部隊にもやや隔たりがありました。これでは横の連携に乏しく、硬直的で、効率性や機動性も低くなりがちだったので、NICの稼働に合わせて組織を見直し、界面科学研究所として一本化しました。こうすることで、各研究部隊の距離が縮まっ



執行役員
デミ コスメティクス バイスプレジデント
兼 毛髪科学研究所長

坪川 恒一郎

て、部門を横断した研究開発を戦略的かつスピーディーに推進することが可能になりました。

——具体的な成果は現れていますか。

坪川●今年6月に発表した「グロス染料」(詳細はP7をご覧ください)がその好例です。これはアレルギーリスクを大幅に低減した新たなヘアカラー用染料です。化粧品部門が得意とする浸透・染色技術と化学品部門が長年培ってきた合成技術を活用して開発しました。従来、化粧品の原料は既製品を購入するしかなく、他社との差別化や画期的な製品の開発が難しかったのですが、化学品部門の技術を生かすことで、世界初の原料成分を生み出すことができました。化学品部門には我々が応用できる技術がまだまだあると思っています。また、化粧品部門で扱うトリートメントの基剤には髪の質感や手触りをよくするものがあるのですが、これを繊維加工に応用すると繊維の質感をアップさせる効果があることが分かり、現在は製品化を目指して協働を進めています。

稲継●化学品部門と化粧品部門は面と面、双方向の付き合いができるようになってきたと感じています。もちろん、オープンイノベーションの輪は社外にも広がっています。NICの開所により、さまざまな分野のトップの方々に来ていただけるようになり、連携を促進するための素地ができてきました。これまで当社と取引のなかった業界の方やアプ

ローチでできていなかったターゲット顧客ともつながりができて、新たなビジネスチャンスが広がっていると感じます。例えば、化粧品部門のお客様が抱える問題を化学品部門のビジネスパートナーと協力して解決するといった今までにない事業テーマにも着手するなど、既に複数のプロジェクトが動き始めています。技術的にも、ビジネスモデルの面でも、社外を巻き込みながら確実にイノベーションが生まれています。

また、我々はNICのほか、中国、韓国、台湾の子会社に基幹研究機能を有し、それぞれが各地域の産官学とネットワークを構築しています。さらに、約3年半前から欧州最大の炭素繊維複合材料研究クラスター「CFKパレーシュターデ」(※2)に所属し、欧州の産学にもつながりを広げています。こうした国内外の大学や研究機関、ビジネスパートナーを巻き込んだオープンイノベーションを仕掛けることで新たな事業領域への進出を目指しています。具体的な成果としては、2016年に発表した超高速遺伝子検査用試薬(※3)、2017年に製品化したプロジェクター用透過型スクリーン「ディアルミエ®」(※4)があり、今もいくつもの案件で研究開発を進めています。スクリーンのような最終製品の事業化にあたっては、化粧品部門のお客様の協力を得て、試験的にマーケティングするといった連携にも取り組んでいます。

採用にもプラスの効果

——人材の採用、定着といった面で影響はありますか。

坪川●会社説明会でNICを見学してもらう前後では、学生たちの表情が明らかに変わり、ここで働きたいという意欲を感じます。また、東北や九州など遠隔地からの応募やUターン志願者が増え、より優秀な人材に集まっていただきやすくなりました。

稲継●化学品部門では内定を辞退する学生が減りました。当社の社員であることにより誇りを感じるようになるなど、既存の社員にもプラスの影響をもたらしています。NICは8つの国と地域で展開する12の海外拠点で

働く社員のロイヤルティの向上にも寄与していて、現地での採用活動にも好影響が出ています。

——オープンイノベーションをより加速させるための課題は何でしょうか。今後の抱負と合わせて聞かせてください。

坪川●一番怖いのは慣れです。今は環境が変わったことが刺激となっていますが、いずれそれも薄れてしまうでしょう。江守社長を部門長とするイノベーション推進部門の会議を通じて、NICをより効果的に活用していくため、継続的に仕掛けを打ち出し続けていきたいと考えています。NICの整備はあくまでもきっかけで、血を通わせるのは我々の役割です。オープンイノベーションに精力的に取り組む機運は着実に高まっていますが、会社の風土として、さらにしっかりと根付くようにしていきたいと思います。



実験室の隣にオフィススペースがあるため、気軽に営業担当者ともミーティングすることが可能

稲継●ベテラン社員の中には以前の働き方を引きずっている人もいて、いかに適応してもらうかが課題です。また、新しいことを考えたり、コミュニケーションしたりする時間を作るためには仕事をさらに効率化し、生産性を上げなければいけません。同質のものが混ざり合ってもイノベーションは起きませんので、多様な人材を作り出し、意識的に混ぜ合わせるような仕掛けにも取り組んでいきます。国内の化学品研究組織を一本化した一方、海外も含めた研究拠点間の連携は十分とは言えません。今後は各研究拠点の特色をさらに際立たせ、それらを混ぜることによって今までになかった価値を創造し、既存事業の拡大、新規事業の創出につなげていきたいと考えています。



2階には毛髪科学研究所、3階には界面科学研究所。大きな吹き抜けから互いのオフィススペースと実験室が見える

用 語 解 説

【※1】デミ ヘア サイエンススクエア
美容室と同じ設備を備えたラボ・スペース。製品開発の場として利用できるのはもちろん、セミナーや講習会にも活用しています。

【※2】CFKパレーシュターデ／2004年に炭素繊維複合材料の開発・応用・普及を目的にドイツで設立され、世界各国から約120の企業・研究機関が参画。当社は2015年3月に加入。同年12月に当社とCFKパレーシュターデが「炭素繊維複合材料開発の連携に関する覚書」に調印しました。

【※3】超高速遺伝子検査用試薬／北陸先端科学技術大学院大学(石川県能美市)の藤本健造教授と当社が量産化を共同開発で実施。光を照射することでDNAの配列の違いを見分け、遺伝子情報を判定することができます。

【※4】ディアルミエ／粒子の大きさがナノ(10億分の1)メートル大の人工ダイヤモンドを使った透過型スクリーン。高い透過性を保ちながら、どの角度からでも高鮮明、高コントラストな映像を見られる画期的な製品。



Le POLISSAGE ● 2018年9月発売 / 美しい艶髪を実現 | ル ポリサージュ |

艶やかな発色で髪に優しいヘアカラー。 世界初^(※1)の新規染料「グロス染料」配合。

美容室向け頭髮化粧品事業のデミ コスメティクスでは2018年9月、ヘアカラー「Le POLISSAGE(ル ポリサージュ)」を新発売いたします。この商品には当社が開発した世界初の新規染料「グロス染料」を配合しています。艶やかでくすみのない発色を実現すると同時に、髪や頭皮に優しいなどの特長を持つヘアカラーです。開発を担当した二人に商品の特長や開発の経緯を聞きました。

ダメージレス、低臭、低刺激

「ル ポリサージュ」には当社が独自に開発して特許出願した、世界初のヘアカラー用染料「グロス染料」を配合しています。

一般的なヘアカラー剤であるアルカリタイプのヘアカラーに使われる酸化染料は、染料を毛髪内部に浸透させるためにアルカリ剤を、また発色させるために酸化剤を必要としますが、アルカリ剤は弱酸性である毛髪や頭皮に負担となり、酸化剤による酸化は毛髪組織にダメージを与えてしまいます。

これに対して、グロス染料は、染料を事前に発色させているため酸化剤が不要で、毛



また酸化染料は、施術中の発色過程で発生してしまう目的色とは異なる一部の染料がにがりくすみ感の原因となるのですが、グロス染料はあらかじめ染料を発色させ、それを精製して不純物を取り除いているため、不要なにがりくすみのない鮮やかな発色を実現しています。その上、染料の分子の大きさがそろっていて、髪の表面のキューティクル層付近に多く染着するので、光が均一に反射し、髪に自然な艶をもたらします。「ル ポリサージュ」にはこうしたグロス染料の特長がそのまま生かされています。

酸化染料に比べて染料の分子がやや大きいこともグロス染料の特長の一つです。髪の表面をしっかりと染める一方、中心部までは染料が入り込まないので、髪のごわつきがなく、指どおりも滑らかです。さらに頭皮にも入りにくいため、アレルギーリスクを大幅に低減することが可能です。

化学品の知見と協力により

この新技術開発は、ヘアカラーの褪色プロセスを解明する目的で染料を合成したことがきっかけでスタートしました。美容業界では、酸化染料を髪の内部で酸化反応・発色させることがしっかり染めるための常識とされていましたが、研究過程であらかじめ発



デミ コスメティクス カンパニー 化粧品研究部

基礎研究グループ 主任

天谷 美奈子



基礎研究グループ

宮本 丈生

色させた染料でもしっかり髪が染まるのが分かったのです。毛髪内で酸化反応させる必要がなければダメージレスとなるため、この染料を使った新商品の開発に着手しました。商品化のためには、染料を安定的に大量に高純度で合成する技術が不可欠なのですが、当社の化学品部門研究員の知見と協力により、その方法を見出すことができました。

染料完成後は、美容師さんが使いやすい剤型化に取り組みました。世界初の染料だけにデータの蓄積がなく、剤の水分量やpH値、界面活性剤の配合種類や量など、500パターン以上を試作しては毛束に染め、使いやすくてよく染まる条件を絞り込みました。

ポリサージュはフランス語で艶を意味します。約30年前に、艶感に優れたカラートリートメント技術^(※2)として当社が命名し、大ヒットとなったのですが、かつてポリサージュを施術した経験のある美容師さんも多く、商品の最大の特長である「艶感」をイメージしやすいので、今回名前を復活させました。

発売時には22色ですが、今後はカラーバリエーションをさらに広げると同時に、色持ちをさらによくなるなど、付加価値の向上に取り組みたいと考えています。



毛髪科学研究所での染毛試験

(※1) PCPC(米国化粧品工業会)において、当該成分のINCI名(化粧品成分の国際名称)を世界で初めて取得しました。(※2) 1985年に発売した業界初の酸性酸化染料タイプヘアカラー剤「デミカラー」を使用したカラートリートメント技術を「ポリサージュ」と命名し、美容サロンにおける新市場を創出。数々の業界賞に輝きました。

インドの繊維加工用薬剤メーカーと業務提携。 南西アジアの巨大市場開拓を本格化。

当社は今年2月、インド南部の都市バンガロールに本社を構えるレジル社^(※1)と業務提携契約を締結しました。レジル社はシリコン柔軟剤を主力にインド国内で着実な成長を続ける繊維加工用薬剤のトップメーカーの一つであり、当社では同社が構築している販売網などを生かし、南西アジア地域での販売を本格化させています。同事業を牽引する佐谷義寛と池端和彦に、インド市場への展開を決めた背景や手応え、今後の計画などについて聞きました。



バンガロールはインドの繊維加工産業の中心地



執行役員
化学品戦略企画室長

佐谷 義寛



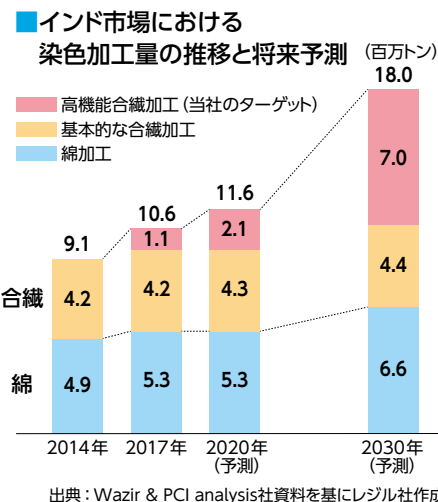
繊維化学品事業部次長
兼 ビジネス開発部長

池端 和彦

世界第2位の繊維大国

日華化学が南西アジアへの展開に注力する背景には、数十年先にわたって期待される市場性の高さが挙げられます。特に、その中心となるインドは、繊維加工用薬剤に関する市場規模が約800億円(日本の約3~4倍)と言われ、中国に次ぐ世界第2位の巨大マーケットが広がっています。とはいえ、従来はその多くが綿や基本的な合成繊維加工向けで、高機能な合成繊維を得意とする日華化学の製品が生かされる場面はあまりありませんでした。

しかし、近年その環境に変化が生まれてきています。ITを中心としたサービス産業を核に、インド経済は現在、飛躍的な成長を続けており、それに合わせて国民の所得が大幅に増加。生活にゆとりが生まれ、購買意欲の高い中間所得者層が拡大傾向にあります。そのような背景もあり、世界的なアパレルブランド、特にスポーツブランドのインド進出が加速中で、合成繊維加工のニーズも急速



に高まっています。加えて、インドで加工された製品の主な輸出先である欧米のアパレルブランドでは環境保全の動きが強く、加工薬剤の中でもフッ素フリー系撥水剤など当社が力を入れる「サステナブル製品」に対する需要が高まりを見せています。

さらに、「人件費や環境対応コストの増大から、中国以外の国に製造拠点を持つ“チャイナプラスワン^(※2)”が進んでいます。今は新たな進出先としてベトナムが注目されていますが、その次の候補地としても南西アジアは有望です」(佐谷)。また、インドの人口(約13億人)は近い将来、中国を抜いて世界一になることが確実視されており、海外での販路拡大を目指すにあたって最も注目されるエリアの一つと言えます。

互いに高め合えるパートナー

展開にあたって提携するレジル社は、インド国内の繊維加工用薬剤メーカーとしてはトップ3に入り、幅広い販売ネットワークを構築しています。同社は、銀のナノ粒子を使った抗菌剤の開発など、新領域の研究にも積極的で、その技術力やイノベーションに対する姿勢などには目を見張るものがあり、「学ぶ点が多く、ともに高め合えるパートナー」(佐谷)です。

今回締結した契約では、レジル社にインドとスリランカ、日華化学に日本や日華化学グループの拠点がある韓国、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、アメリカなどで、互いの製品の独占販売権を付与。当社では、南西アジアでの販売を軌道に乗せるため、レジル社の技術者を当社に招いて製品に関する研修を実施したり、ほぼ毎月当社から営業と技術スタッフをレジル社に派遣したりするなど、



中国に引けを取らない大規模な縫製工場。インドには繊維加工の巨大マーケットが広がっています

二人三脚でインド市場での販売強化に取り組んでいます。「レジル社側でも重点的に売り込む企業を選定するなど、両社が知恵を出し合い、綿密な販売戦略を推し進めています。まだ踏み出したばかりですが、十分な手応えを感じています」(池端)とのことで、目標を上回るペースで順調に売り上げを伸ばしています。

このように好調なスタートを切った南西アジアでのビジネスをより活発化していくため、この秋からはインド国内で当社製品の現地生産に向けた準備に着手する予定です。ゆくゆくは、原料の調達から製造、販売までの一貫した体制の構築も視野に入れており、コストやスピード、サービスはもちろん、インド市場向け製品の共同開発など、あらゆる面を一層強化し、市場開拓に向けてアクセルをさらに強く踏み込んでいく考えです。

用語解説

【※1】レジル社 / 1994年設立。綿用を中心とした繊維加工用薬剤の製造から販売までを担っています。従業員数は約350名。

【※2】チャイナプラスワン / 中国への集中投資によるリスクを回避するため、中国以外の地域にも拠点を構える経営戦略のこと。製造業を中心に、東南アジアや南西アジアへの進出が加速しています。

連結貸借対照表

(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2018年6月30日現在)	前連結会計年度 (2017年12月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	29,371	28,333	1,038
現金及び預金	9,463	7,987	
受取手形及び売掛金	10,811	10,774	
商品及び製品	3,752	3,634	
仕掛品	801	664	
原材料及び貯蔵品	3,164	2,937	
その他	1,394	2,348	
貸倒引当金	△18	△13	
固定資産	26,115	26,761	△646
有形固定資産	23,033	22,758	274
建物及び構築物(純額)	12,995	13,384	
機械装置及び運搬具(純額)	2,334	2,470	
土 地	5,326	6,153	
その他(純額)	2,376	749	
無形固定資産	533	546	△12
投資その他の資産	2,548	3,456	△908
資産合計	55,486	55,094	392

連結損益計算書

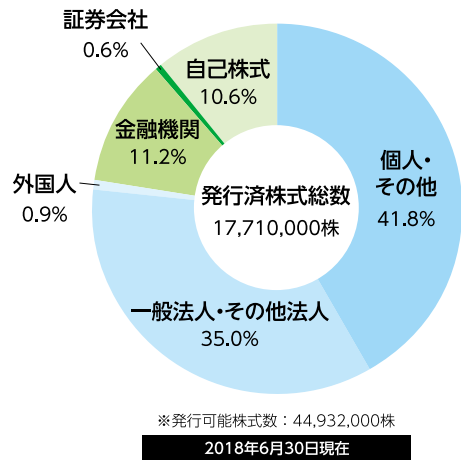
(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2018年1月1日～ 2018年6月30日)	前第2四半期 (2017年1月1日～ 2017年6月30日)	増減
売上高	24,752	23,414	1,337
売上原価	16,708	15,855	853
売上総利益	8,043	7,558	484
販管費及び一般管理費	6,830	6,482	348
営業利益	1,213	1,076	136
営業外収益合計	197	212	△15
営業外費用合計	144	189	△45
経常利益	1,266	1,099	166
特別利益合計	3,774	108	3,665
特別損失合計	3	37	△33
税金等調整前四半期純利益	5,036	1,170	3,866
法人税等	2,015	506	1,508
四半期純利益	3,021	664	2,357
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,192	92	1,100
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,829	571	1,257

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

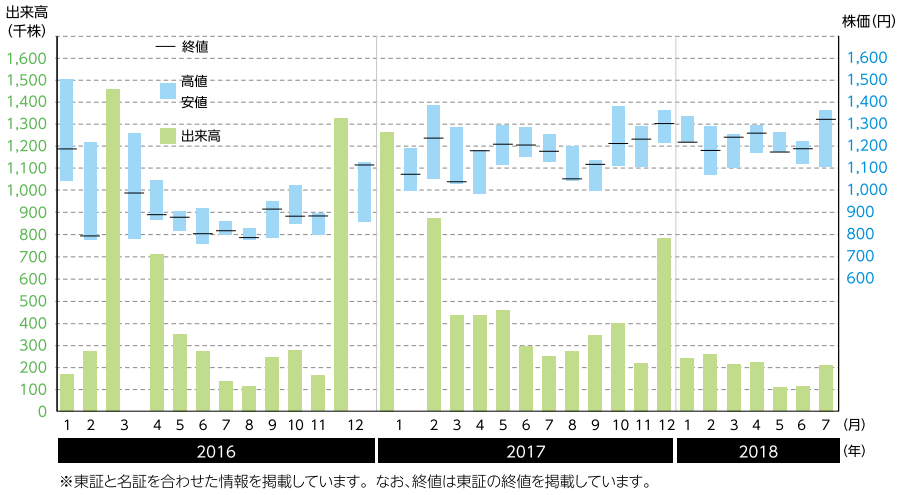
(単位:百万円)			
区 分	当第2四半期 (2018年1月1日～ 2018年6月30日)	前第2四半期 (2017年1月1日～ 2017年6月30日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068	1,986	△918
投資活動によるキャッシュ・フロー	809	△1,691	2,501
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,453	130	△2,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,153	6,219	933

株式の状況

- 株主数：2,705名
- 所有者別分布状況



●株価の推移



4月 日系企業で初めてZDHC(※)に加盟しました

ZDHCは、アパレル業界全体で化学物質管理に取り組むために設立されたグループで、世界的な大手ブランドメーカーや繊維加工サプライチェーン(アパレル・小売・繊維加工メーカー・素材メーカー等)に関わる団体が加盟しています。2020年までに、繊維製品等の製造工程における有害化学物質の排出をゼロにすることを目標に掲げ、2015年からは製造時の意図的使用を制限する化学物質リスト(ZDHC MRSL)を公開しています。

当社では2015年より、繊維加工サプライチェーンの一員としてこの方針に応じ、有害物質の使用を自主制限し、ZDHC MRSLの規定値内の自社製品リストを自社ホームページ上で公開してまいりました。こういった取り組み実績や環境に配慮した企業姿勢、CSR活動が認められ、日系企業で初めてZDHC加盟に至りました。

これを機に当社は、国際的な業界内でのさらなる認知度向上を狙い、消費者、労働者、環境を持続的に保護することに配慮した繊維加工薬剤を提供し続け、ZDHCの理念達成に寄与してまいります。

※ZDHC：Zero Discharge of Hazardous Chemicals(有害化学物質排出ゼログループ)。
2011年に発足したThe ZDHC Foundationが運営。本部はオランダ・アムステルダム。

4月 鹿島工場二期工事着工

当社の鹿島工場(茨城県神栖市、鹿島臨海工業地帯)にて、第2工場の建設および倉庫・事務棟などを拡張する二期工事に着工いたしました。当社化学品事業において既存製品の生産機能を集約し合理化・効率化を図るとともに、重要戦略であるウレタンなどの特殊樹脂を中心とした新規事業の販売拡大のために、国内の増産体制を確立することを目的としており、2019年下期に稼動開始予定です。

二期工事のコンセプトは「Plant ZERO」で、具体的には①作業員の移動、②品質不良、③3K(きつい、危険、汚い)環境、④設備トラブル、⑤廃棄物といった課題のすべてをZERO(ゼロ)にすることを目標に掲げています。設計にあたっては社内に建設委員会を設け、現場スタッフの意見や理想などを反映させており、「人にやさしく、より生き生き働ける環境で、安定した高品質の製品をお客様に提供し続ける」という、将来の当社グループ全工場へ展開するためのモデル工場を目指してまいります。

6月 台湾の子会社が創立50周年を迎えました

当社最初の海外拠点としてスタートした「台湾日華化学工業股份有限公司(以下、NTW)」が今年創立50周年を迎えたことを記念し、台北市内のホテルにて記念式典を開催しました。式典では、台湾經濟部工業局 呂正華局長、日本台湾交流協会台北事務所 横田光弘副代表をはじめとする台湾政府関係者、現地ビジネスパートナーなど200名を超える方々に出席いただく中、当社社長の江守より来賓の方々に、半世紀にわたる事業の発展と支援への感謝をお伝えするとともに、台湾社会へのさらなる貢献を誓いました。

NTWは、台湾における日系繊維加工企業の隆盛に伴い、1968年に板橋市に設立し操業を始め、2014年に桃園市に移転。繊維産業向け加工薬剤等の製造販売の他、研究所「NICCA Advanced research center」を設立し、台湾の基幹産業であるIoT関連薬剤、また当社グループの新規事業開拓の柱となる先端技術の研究開発を行っております。

4月・6月 デミ コスメティクスより新商品発売

美容室向け頭髮化粧品事業のデミ コスメティクスより、この上期中に2つの新商品を発売いたしました。4月には、夏のニオイ対策とリフレッシュ効果を発揮する夏限定シリーズ「Halema'o(ハレマオ)」を新発売。爽やかなハーブとフルーツの香りを配合した、夏を快適に過ごすためのビューティケアシリーズで、クール系シャンプー、ドライヤータイムを短縮する速乾性トリートメント、頭皮や肌をクールダウンするリフレッシャー、白浮きしないUVカットスプレーの4種類(全7アイテム)のラインナップです。

また6月には、昨年全面リニューアルした医学発想のヘアケアブランド「フローディア」シリーズに、新たにスカルプケアに特化した「フローディア スカルプケア」を追加発売。頭皮トラブルが増加傾向にある現代女性の悩みに、「ととのえる」と「みたす」のアプローチですこやかで美しい艶髪へ導きます。ホームケア品は、髪の手入れである頭皮環境をととのえる「スカルプライン」と低刺激処方の「バランシングライン」で5種類(全6アイテム)、サロンケア品はヘッドスパ用アイテムの商品構成となっております。いずれも全国の契約サロンにて取り扱っていただいております。

Ø ZDHC
CONTRIBUTOR



鹿島工場第2工場の完成予想図
〈二期工事概要〉
投資額:36億円、建築面積:3,850㎡(約1,170坪)
延床面積:6,190㎡(約1,880坪)



式典の様子



台湾日華化学工業の社屋全景



夏限定シリーズ「ハレマオ」



「フローディア スカルプケア」